

スクミリンゴガイに注意しましょう (俗称：ジャンボタニシ)

スクミリンゴガイは、南米原産の淡水巻貝です。
雑食性で、特に柔らかい植物を好むため、**水田に入ると水稲を食害**します。移植後間もない水稲苗は、食害により欠株となることがあります(写真1)。

寒さに弱く、茨城県より北では越冬できないとされていますが、暖冬の影響により、令和2(2020)年度の水稲作では、全国的に大きな被害が認められました。



写真1
食害による欠株発生ほ場

現在、栃木県においてスクミリンゴガイによる農作物の被害は確認されていませんが、足利市・野木町の排水路等で生息が確認されています。

今後の気象条件によっては、生息地域が拡大する恐れがあるので注意が必要です。
スクミリンゴガイの特徴をおさえ、発生が確認された場合には、裏面の防除対策を行いましょう。

○スクミリンゴガイの特徴

卵

- ・濃いピンク色で200～300個の卵塊を形成する
- ・水面より上の植物体や水路の壁に産み付けられる

貝

- ・成貝の殻の高さは2～7cm程度
- ・長い触角をもつ
- ・他のタニシ類に比較して、らせん上部の長さが短く、殻の直径と高さがほぼ同じ

※卵にはPV2という神経毒が含まれ、貝には人体に有害な寄生虫がいる場合があるため、素手で触らないようにしてください！



写真2 卵塊

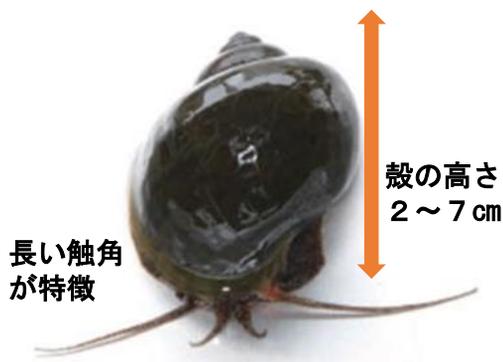
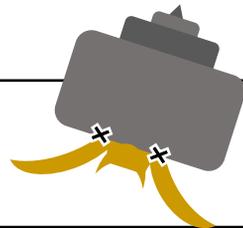


写真3 成貝



写真4 スクミリンゴガイ(左) マルタニシ(右)

○スクミリングガイの防除対策



時期	対策	方法と効果
冬期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕うん ・ 水路の泥上げ 	<p>物理的に破壊するとともに寒風にさらす</p> <p>越冬場所をなくし、越冬個体を減らす</p>
移植前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水路からの侵入防止 ・ 水路での殺卵・捕殺 	<p>取水口・排水口にネットや金網を設置し、侵入を防ぐ</p> <p>濃いピンク色の卵塊は水中に払い落とし駆除する ふ化直前の黒～白っぽい卵塊は押しつぶし駆除する 成貝は捕殺し、貝密度を下げる</p>
移植時・移植後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中苗移植 ・ 浅水管理 ・ 薬剤散布 	<p>食害されにくい4葉期以上の中苗を植え付けることで、被害を軽減する</p> <p>ほ場を均平にし、水深を4cm以下で管理することで摂食行動を抑制する</p> <p>メタアルデヒド粒剤、燐酸第二鉄粒剤等の登録農薬を散布し、殺貝や食害を防止する</p>

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田畑輪換 ・ 農業機械の洗浄 	<p>1年間畑地化することで貝密度を減らす</p> <p>未発生ほ場への貝の持ち込みを防止する</p>
-----	---	---



水路の泥上げ



払い落としによる殺卵



被害は水深の深い所に集中するためほ場を均平にし、浅水管理する

写真出典：千葉県



(※) 詳しい情報は、農林水産省公表
[スクミリングガイ防除対策マニュアル（移植水稻）](#)
 をご覧ください。



問い合わせ先：栃木県農業環境指導センター 防除課

電話：028-626-3086

FAX：028-626-3012